大分県東国東郡姫島村方言の比喩語について

井上博文

はじめに

（1）調査地の概要；国東半島の沖合に浮かび、九州東岸域であり、同時に瀬戸内海域の西端に位置する。沿岸漁業を主とするまとまりのある漁業社会である。

（2）調査年月日；平成５年２月27･28日　(5時間)

（3）教示者；①松原藤三郎氏（m.S.4）在 商店　古庄孝一郎氏（m.T.4）　農業
②北村昭二氏（m.S.2）　漁業　③高橋ミサエ氏（f.T.11）　農業

（4）調査者・調査場所；井上博文・①松原氏宅、②公民館、③高橋氏宅

（5）調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づく。補いとして、「第九編 方言、地名」（1986『姫島村史』姫島村史編纂委員会）、北村昭二『姫島方言俚言集』（私蔵版）を参照した。

（注）「男性で昭和４年生まれ」であることを表している。「ｆ」は女性、「T」は、大正生まれであることを示している。）また、「N.A.」は、「No Answer」を示している。

Ⅰ．自然現象

1　日照り雨　キツネノシューゲン（狐の祝言）、キツネノヨメイリ（狐の嫁入り）
○ヒガ　ˈテˀル　アˈメガ　フーˈル　キˈツネノシュˀーゲン。（m.S.2）
○キˀツネノヨˈメイリジャー。マー　ヒˀガ　ˈテッˀチ　アˀメガ　フˈリヨル。
（f.T.11）　狐の嫁入りだあ、まあ、日が照って雨が降っている。

2　入道雲　ユーダチグモ（夕立雲）、ニュードーグモ（入道雲）

3　旋風　マイカゼ（舞風）

4　霜柱　シモバシラ　○シˈモバシラガ　タッˀチョン。（f.T.11）　霜柱が立っている。
姫島では霜柱は少ない。

5　つらら　モーガンコ・モガンコ　鉞の先に似ているから。○ホˀラ　モˈガンˀコガ　プˈラサガチョˀル。モˈガンˈコ。（f.T.11）

6　北斗七星　ホクトヒチセー・ホクトヒチセイ　○ホˈクトヒチセーガ　デˈチョˀン　ˈドー。（f.T.11）　北斗七星がでているぞ。

7　昴　スバル

8　流れ星　ホシガ　スベッタ（星が滑った）、ナガレボシ

Ⅱ．動物

9　かわはぎ　ハゲ

10　ひらめ　オークチ（大口）

11　ひきがえる　ワクド、ウワクド・ウバクド（大ワクド）　○ホーˀラ　ウˈバˀクド　コッチ　オン　ドー。（f.T.11）　ほうら、ひきがえる、こっちにいるぞ。小さい蛙はピキガエル。

12　青大将　ヤワタリ（屋渡り）・ヤワタロ　蛇の総称はヘベ。

13　とかげ　トカキリ、トカゲ<新>

14　かまきり　カマキリ

15　みずすまし　ゲンゴロー・ゲンゴロ

16　きつつき　キツツキ

17　せきれい　セキレイ

18 ふくろう　ヨズク、フクロー<新>

III. 植物

19 馬鈴薯　コーボイモ（弘法芋）、ジャガイモ<新>
20 とうもろこし　トーキビ、トーモロコシ<新>
21 いんげん豆　インゲン・インゲンマメ
22 そら豆　ナツマメ（夏豆）、トロクスン　並べると十個で六寸になるからとも。
23 木くらげ　知らない。茸の総称はチバ・チーバ。
24 げんのしょうこ　ゲンノーショーコ・ゲンノショーコ
25 どくだみ　ニューズグサ・ニュードーグサ　揉んで膿みの吸い出しに使う。
26 いたどり　知らない。
27 からすうり　カラスウーリ
28 すみれ　スミレ
29 春蘭　オノエノジジババ・オノエノジーババ・オノエノジーバー・ジジババ
　花の部分が向かい合った顔に似ているから。
30 母子草　ハハコグサ
31 ねむの木　ネブリグサ・ネムリグサ、ネムノキ　○サ'ワッテカ'ル　ギ'リー'ト　'ナン'カ　コ'ーン　マイテク'ル　ヤツ'ヤ。（m. S. 4）　触るとギリートなにかこう巻いてくるやつだ。

IV. 性向注

32 熱しやすく冷めやすい人　N. A.
33 あわてん坊　ソータケネー
34 動作の鈍い人　ヌーリー
35 嘘つき　センスラ・シェンスラ、千に一つも真実が無い。マンスラ　万に一つつも真実が無い。
36 ほらふき　オーブロシキ（大風呂敷）、ホラフキ
37 おしゃべり　テンバ・テンバハジキ　男女の両方に使う。
38 冗談言い　トーグレ　滑稽な人
39 口先だけの人　クチベンガ　ミヨト（口弁が見事）・クチベンガ　イー
40 とんちんかんなことを言う人　ゴヌル
41 のらりくらり煮えきらない人　グズトク　ぐずぐずしている。
42 怒りっぽい人　ヒチリン（七輪）　すぐ火を起こすことができるから。
　カンシャクトレ　○アン　シタ'ー　カ'ンシャクトレヤー'ン。ジ'キド　ハラタツー'ル。（f. T. 11）　あの人は癇癪持ちだ。すぐに腹を立てる。
43 気むらな人　テンキモン（天気者）、ヒヨリモン（日和者）
44 泣き虫　ナキベス
45 おてんば娘　カンチョラ・カンチョラムスメ（→48）、オトコメロ（男女郎）
46 腕白坊主　ガキ・ガキタレ
47 出しゃばり　デベソ（出臍）　出すぎた世話をする。
48 どこへでも顔を出す人　カンチョラ　カンチョラは簡単に持ち歩くことのできるランプ。
49 家にこもって外出しない人　ウトネコ　猫のようにじっとしているから。
50 小心者　ケショトレ、オクビョーモン、ノミノキンタマ（蚤の金玉）
51 内弁慶　ウチベンケー、ミナトベンケー　ナダユーレー（港弁慶　灘幽霊）港では大きなことを言っていても海の上では駄目な人。

52　人づきあいをしない人，社交性のない人　ウド　ウドは洞穴のこと。
53　妻に対して頭の上がらない男　シリ　シカルル（尻に敷かれる）
54　けち　ニギリ（握り）　掴んだものは離さない。
55　欲張り　ヨクドモン　欲の深い人。

V．食生活
56　大食漢　クイスケ（食助））、オーモングイ（大物食い）
57　ぼたもち　オハギ　姫島のボタモチは芋と小麦粉とを混ぜて作ったもの。
58　砂糖味が薄い　サトヤガ　トーイ（砂糖屋が遠い）　○ドッカ　「トーイ　トコロオ　サ「トウ「リガ　「トー「リヨルー。（f.T.11）　どこか遠いところを砂糖売りが通っている。
59　塩味が薄い　シオケガ　カーリー（塩気が軽い）
60　大酒飲み　フカ（鱶）、オーブカ（大鱶）、クジラ（鯨）　フカよりも程度大。
タルンソコガ　ヌケタゴツ　ノム（樽の底が抜けたように飲む）
61　酒に酔ってくだをまく　クダマキ
62　酒に酔って顔が赤くなる，そのさま　サ「ルン「ツ「ランゴテ　ナ「ル（猿の顔のようになる）、イ「ジェダコミタ「イニ　ナッ「テ（茹蛸みたいになって）

VI．動作・様態
63　恥ずかしくて顔が赤くなる，そのさま　ツラガ　モユル（顔が燃える）
64　どしゃ降りの雨　タライオ　カヤエータゴテ　フル（盥をひっくりかえしたように降る）、ドシャブリ
65　ずぶ濡れ・びしょ濡れになる，そのさま　ヌレネズミ（濡れ鼠）、ビショヌレ
66　服装がだらしないさま　ズンダレ
67　髪がのび放題なさま　ブショーモン、ブショーヒゲ・ブシューヒゲ（不精髭）
68　厚化粧をしている人　カベヌリ（壁塗り）
69　背丈の高い人　デンキンバシラ（電信柱）
70　出びたい　デボチン　頭の前や後が出たことをウシロサイコニ　マエデッパリ。
71　汗がひたいから流れ落ちる　N.A.
72　目を丸くする　メガ　トビデル（目が飛び出る）
73　口をとがらす　トンガラカース
74　焦げ臭いにおい　コゲクーセー・コゲクサイ　○コ「ガラケータンジャ「ロ。ク「シェ　ドー。（f.T.11）焦がしたんだろう，臭いぞ。
75　遠回り（をする）　オーマワリ・オーマーリ（大回り）
76　末っ子　シリフサギ（尻塞ぎ）、オトンボ
77　一生懸命頑張る　ギバル

VII．その他（調査票以外）
（1）自然（現象）
78　竜巻　エーノー　エイの尾（エーノオ）に譬えた。○フ「ユノ　ナリグチ「ニ　コーゼンセンシェ「ンガ　「トー「ル　トキニ　「ズーッ「ト　エ「イノーガ　サ「ガリヨ「ル「チュ「ーテ　ユー。（m.S.2）　冬のなりぐちにこう前線線が通る時にずっと竜巻が下がっていると言う。
79　陽射しが強いさま　ヒノカネ（火の鉄）・ヒカネ　焼いた鉄の熱さに譬えた。
○ヒ「ガネ「ン　ツ「エーノニ　ハ「タラキヨッタ「ー。マ「イタオルッ「　ソ。ア「レワー。（m.S.4）陽射しが強いのに働いていた。倒れるぞ，あれは。
80　干潮時の水溜まり　タンボ　○アッ「コ「ノ　タンボニ　イテカラ　サカナ　オ「ル

ジャトカ　「ナ」。（m.S.2）　あすこのタンボに行くと魚がいるとかね。

81 冷たいこと　カネコリ（金氷）　○テ「ガ　カ「ネ」コリジャ。（m.S.2）　手が冷たい。

82 波が高く航行できないさま　トガタッチョル（戸が立っている）　戸あると先に行くことができないから。　○ト「ガ　タッ」テ　サキニ　イ「カレンチュ」　コトデス。（m.S.2）　戸が立って先に行けないということです。　潮と風とが逆らってサンカクナミ（三角波）がタチアガル。サエナミ（塞波）とも言う。○サ「エガ　タッチョル」ー。イカレン　「ノ」ー。（m.S.2）　サエが立っている。（船に）行けないねえ。　船底を叩いて、○フ「ル」イフネワー　モー　ソ「コ」デモッテ　ア「カ」ガ　イッテ　シ「ンデシマー」ウ「チュ」ユー」　ナ。（m.S.2）　古い船はもうそこで水が入って死んでしまうと言うね。

83 六月頃の東風　ヒバリゴチ　雲雀が鳴く頃に吹くから。

84 梅雨明けに吹く東風　ゴトバエ　　櫓船（ロシャン）の頃はこの風が吹き出すと長く吹き、その間は漁に出ることができずに、五斗の米を食い尽くすほどに長く吹くから。　○マイニチ　「マイ」ニチ　モ　ドンドン「ドンドン　フ」クンデス。（m.S.2）　毎日々もうどんどんどんどんどん（コチが）吹くんです。　クロバエとも言う。

85 波の上部と下部　（ナミノ）ソコ（波の底）　（ナミノ）ツジ（波の頂上）

86 黒耀石　カミキリイシ（紙切り石）　黒耀石は鋭く、紙でもすっと切れるから。

（2）動物

87 しろく鮫　カセブカ　カセは櫂の上に付いている横棒。その形が似ているから。

88 魚の腸　ヒャクヒロ（百尋）　魚のハラワタは長いから。

89 蛇の一種　ウシヘビ　　黒い蛇。姫島にかつて飼育されていた牛は黒牛。
○ヨ」ー　「ア」ンタ　ウ「シング」ソオー　ホ「タンカクル」ト　オ「ーテク　ー」ルチイ「ヨッ」タ。（m.S.4）よく、あなた、牛の糞を投げかけると追ってくると言っていた。

90 蛇の一種　ヒグラシ（日暮し）　この蛇が噛み付くと日暮れまで離さないから。

（3）性向

91 働き者　ホネキリ（骨切り）、ゴテキキ（五体利き）

92 見栄をはる　ヤマコハル（山子はる）、ヘートリグモ（蝿とり蜘蛛）

93 利害によって都合のいい方につく人　アナマタゴーヤク（股膏薬）・ウチマタゴーヤク（内股膏薬）・リョーメンゴーヤク（両面膏薬）　内股に貼った膏薬は右に付いたり左についたりするから。

94 無口な人　コッテウシ（牡牛）　雌牛はすぐなくが牡牛はなかなかなかないから。

95 評判言い　ホーソーキョク（放送局）<新>、カクショーキ（拡声器）<新>、スピーカー<新>

96 わけのわからないつまらないことを何度も繰返す　ヘンジョーコンゴー　ユー（遍照金剛言う）　お経の一部で何度も繰返してとなえられるが、何のことか聞いていて分からないから。

97 物知り　イキジビキ（生字引）、アルクヒャッカジテン（歩く百科事典）、マンネンゴヨミ（万年暦）

98 見かけ倒しの人　ボーブラ（南瓜）　昔の南瓜は大きいばかりで、食べてもうまくなかったから。

99 人の言うことをよく聞く素直な子ども　ミミアキ（耳開き）

100 子ども　オタカラ（お宝）・オタカラコメンダンゴ（お宝米の団子）　子どもへのほめ言葉。　○コ「ラ」　オ「タカラジャ　ノ」ー。（m.S.2）

101 人柄のよい人　ホトケサマミタヨーナ（仏様のような）

102 お人好し マンマンサン　マンマンサンは神様のこと。○ニ「ンゲンヨシー」ン　コトオ　マ「ンマンサンノゴトア」ールチュ　「デ。（m.T.4）お人好しのことを神様のようにあると言うよ。

103 ひねくれ者　ジョーシクワクド・ジョーシキバクド（常識わくど）　ワクドはひきがえるのこと。常識と反対のことばかりをする人。

（4）食生活

104 魚の好きな人　ネコ（猫）、ネコンジョー（猫の性）　○ホー　「サッ」　マ「ツバラン　ネ」コンジョーガ　「イ」カ　コ「ーチ　クイヨン」　ド。（m.T.4）
ほれまあ、松原（地名）の魚好きが焼きいかを買って食っているぞ。

（5）動作・様態

105 櫂を漕ぐ　ネル（練る）　前後左右への動きが似ているから。○ロワ　コグ　カイワ　ネル。（m.S.2）櫂は漕ぐ、櫂は練る。

106 聞かせること　ミミオ　フク（耳を吹く）

107 酒に酔ってふらつくさま　ヒロドル（尋どる）　○ヒトヒロ　フ「タヒロ」チ　トッテ　イク「ヨ」ーニ　ヒョ「タヒョター　ヒョ「タヒョター」チ　コー　「ヨ」ーチ　「イ」クカラー。（m.S.2）一尋二尋ととって行くようにひょたひょたひょたひょたひょた、こう、酔って行くから。

108 腹をたてる　ゴーイリ（業入り）

109 高望みをする　タカホ　マク（高帆を巻く）　○アレワ　ド「ゲ」カユーチ　ア「レワスカ」ン　コレ　スカ」ン。タ「カホ　マクナチューテ　「ヨ」ー　ユ「ワレデ」ス。（m.S.2）あれはどうだと言って、あれは嫌い、これは嫌い（と言うと）、タカホマクなといってよく言われます

110 仕事を怠ける　ウチギ　トル（鰻をとる）・ウチギオ　スル（鰻をする）

111 痩せた人　ヒカマス・ヒカマ（干かます）　痩せている魚のカマスをさらに干したさまに似ているから。○カ「マス　ソノモノガ　モ」ー　ヒョ「ロヒョロートシタ　ヤツ」ヤ」ワ　「ナ」ー。ソレオ　「ホ」シタラ　モー　ホネカ　ワミ」タイニナシ」テシ「マ」ウカラー。（m.S.2）かますそのものがもうひょろひょろしたやつだよねえ。それを干したらもう骨皮みたいになってしまうから。

112 安請け合いするさま　テンプラヤシー・テンプラシー　テンプラ（天婦羅）は簡単に出来る料理だから。

113 本性を隠しているさま　ネコカブリ（猫被り）

（6）身体関係

114 後頭部　トンノクボ（盆の窪）

115 腕　エダ（枝）

116 掌にできる窪み　テクボ（手窪）

117 瞳　ホトケサーン（仏さん）

118 尻（臀部）シリカブト（尻兜）　尻の形を兜に譬えたものか。

119 柔らかい頭髪　ネコゲ（猫毛）　猫の毛は柔らかいから。

120 ぼさぼさの頭のさま　ガッソー（兀僧）　兀僧は江戸時代の髪型のひとつ。
○ガッ「ソー　ウチカブッ」テ。（m.S.2）ぼさぼさの（みっともない）頭をして。

（7）その他

121 場所の名前　ジューノジ（十の字）　二つの道が交差し「十」の字となっているから。○ジュ「ーノ」ジー　タ「コアゲ　イコ　ヤー。（m.S.2）十の字に風上に行こうよ。

122 岩の名前　トシャクイワ　観音崎にある二つの岩。稲をつんだトシャク（稲積）

に形が似ているから。

123 塩田　ハマ（浜）　姫島ではハマと言えば塩田のことであった。現在は「海岸」を指す。塩田で働く人をハマコ、塩田に行くことをハマイクと言う。

124 進水式　ジンオロシ（輪下ろし）・ジンゴロシ　ジンは船をオカ（陸）の上に上げるとき船の底に敷くもの（スケモン）。進水式の時はそのジンから下ろすから。○コ'ロ　スケルカラ　ゴ'ロ'ゴロユーチ　オ'ル'ルカラ　ジ'ンゴロシジャ'ユ'ーチー。（m.S.2）コロを敷くから（下ろす時に）ゴロゴロいって（動が）下りるからジンゴロシだと言って。

125 重いものを動かすろくろ　カグラサン（神楽さん）　ろくろに棒を通して、そのまわりを人がぐるぐる回わるさまが神楽を舞うさまに似ているから。
○ム'カシカラ'ー　'モ'ー　アノー　オーキナモ'ノ'オ　ウゴカスノワカ'グ'ラサンニ　キマッ'チョッ'タ。グルグル'グルグル　マウ'ー'カラカ'グラサ'ンチュンジャ'ロ。オンナジ　トコロ'バッカ'ラ　マ'ウカ'ラ。オ'カグラモ　ヤッ'パ'リー。（m.S.2）昔からもう、あの、大きなものを動かすのは、カグラサンに決まっていた。ぐるぐるぐるぐる舞うからカグラサンというのだろう。同じ所ばっかり舞うから。お神楽もやっぱり。

126 煙突　タケズツ（竹筒）　形が似ているから。

127 労働の合間の休憩　タバコ（煙草）　○タ'バ'コニ　ショー　ヤー。（m.S.2）

128 恋愛の手助け　ワキロオシ（脇櫓押し）　○トーニンドー'シヤ'ー　チョイトーハ'ズカシー'チ　イエン'カ'ラ　'ナ'。'ホ'ヤカラ　ヨ'コ'チョカラ　コンダーク'チゾエーシテ　ヤルン'ジャ　ワ。（m.S.2）当人同士はちょっと恥ずかしくて言えないからね。だから横から今度は口添えしてやるんだよ。

129 結婚式の翌日の祝宴　マナイタバライ（俎板ばらい）　結婚式の翌日に婿（ムコサン）の方に両家の親戚を招く。

130 離婚したこと　サラヌタ（皿が割れた）　割れた皿は元には戻らないから。頭で突き上げることをカヌルと言い、頭を突き上げて皿を割った。

131 酒を飲ませて意に従わせること　チョコシバリ（猪口縛り）　○ノ'マシェテ'ー　ジブンニ　シ'タガワセル'カ'ラ。（m.S.2）酒が貴重であった頃は有効であったが、現在は酒がいつでも手に入るから効かないという。

132 指先で打つ遊び　シッペイ（竹筒）

133 とんぼ返り　サカトンボ（逆とんぼ）

まとめ

○「海」に深く関わる漁業社会を反映するものか、姫島村方言には海の事物を喩材としたものが栄えていることを特色として指摘できる。と同時に植物に関わる比喩表現が少なく、共通語的であることも注目される。

○黒い蛇をウシヘビというのは、姫島でかつて盛んに飼育（肥育）されていた牛が黒牛であった事実を、牛を飼わなくなった（見かけなくなった）現在において物語るものであり、比喩語に過去の姫島のさまをうかがうことができる。しかし、黒牛そのものが身近な暮らしの中から消えてしまった結果、ウシヘビといった語も何故そう言うのか（イメージ性が色褪せ）分からなくなっていくものと思われる。

（注）姫島村の性向語彙については、拙稿「大分県東国東郡姫島村方言に於ける方言性向語彙資料」（1982　広島大学文学部 内海文化研究紀要 第21号）参照。

付記　調査では、特に北村昭二氏・松原藤三郎氏のお二人にたいへんお世話になった。記して御礼申し上げます。

（いのうえひろふみ　大阪教育大学）